

Ⅱ 21 年度自己点検評価報告書 個別表

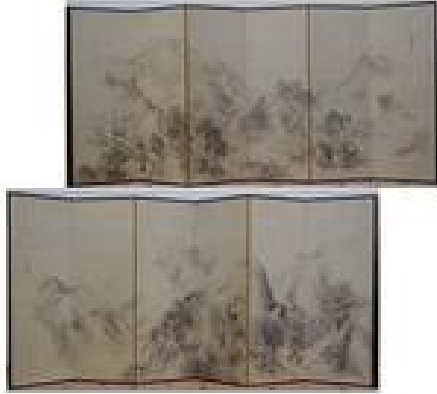
【書式 A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1111

大項目	i 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
-----	---

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)－1 適時適切な収集									
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者		列品管理課長 谷 豊信			
実績・成果	・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品8件（内、重要美術品2件）を購入した。 内訳：絵画 3 件、 彫刻 1 件、金工 1 件、刀剣 2 件、漆工 1 件 決算額 229,150,000 円									
補足事項	・呉春筆「山水図屏風」（江戸時代・18 世紀）は、柔らかく済んだ秋の光が画面にあふれる広やかな山水図である。呉春が蕪村の師の与謝蕪村の画風をもとにしながら独自の画風を確立していく時期の作品で、代表作と称すべき質の高い作品で、展示効果も高い。 ・十一面観音菩薩立像（平安時代・9 世紀）は、体躯の量感ある表現と、深く、鋭く刻まれた衣文が秀逸な、平安初期彫刻の優品である。 ・重要美術品の薙刀（南北朝時代・1338 年）は、制作当時のありのままの姿を保っており、貴重な資料である。  購入品 呉春筆 山水図屏風									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21	
	収蔵品件数	112,776 件	—	—	経年変化	111,588	112,439	112,529	112,776	
	うち国宝	87 件	—	—		88	87	87	87	
	うち重要文化財	624 件	—	—		612	619	622	624	
	購入件数	8 件	—	—		10	13	7	8	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)									
中期計画記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立博物館) 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(1)-1 適時適切な収集								
担当者	担当部課	学芸部			事業責任者	列品管理室長 若杉準治			
実績・成果	博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品 7 件を購入した。 購入に際しては中期目標にもある通り「京都文化」を意識しているが、今年度は京狩野の絵画資料、京都画壇を代表する長澤蘆雪の絵画作品、近世初期の京都と海外との交流を示す南蛮漆器の作品、京焼の陶工尾形周平の作品などに反映されている。 内訳：絵画 3 件、漆工 1 件、陶磁 1 件、考古資料 2 件 決算額 40,475,000 円								
補足事項	「新曲」絵巻は、室町時代に流行した幸若舞の物語を主題とするもので、数少ない絵巻形式の作品として重要な物である。 双鹿図(写真)は、18 世紀の京都画壇を代表する長澤蘆雪の作品で、従来館蔵品のなかった蘆雪画を加えた意義は大きい。 秘法画伝書は、京狩野の絵師永良が弟子に伝えるために執筆した画法書で、昨年度購入した永良の白梅群鶏図とともに計画中の「京狩野展」で活用される。 色絵西洋人物図急須は、京焼の陶工尾形周平の作品で、図様、技法に西洋の影響の強い作品で、これまでしばしば特別展で活用されてきた。 また双龍花鳥蒔絵螺鈿裁縫道具入は、西洋人が求めた京都の漆工技術を具体的に示す資料で器形はこの一点しか知られずきわめて貴重である。この陶磁と漆工は、京都と西洋の交流を示す資料として重要である。 2 件の鏡は、古墳時代に中国の鏡にならって制作された日本の鏡で、出土地は不明ながら、当館の鏡コレクションの充実に寄与する。 館蔵品の重要文化財の件数に 1 減があるが、これは 1 件で指定されている「坂本龍馬関係資料」のうち紋服 1 領を染織の重要文化財として計上していたのを是正したことによる。								
									
双鹿図 長澤蘆雪筆									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	収蔵品件数	6,526 件	—	—		6,320	6,386	6,417	6,526
	うち国宝	27 件	—	—		27	27	27	27
	うち重要文化財	176 件	—	—		181	177	177	176
	購入件数	7 件	—	—		17	36	8	7
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承									
事業名	(1)－1 適時適切な収集									
担当者	担当部課	学芸部企画室		事業責任者		学芸部長補佐 岩田茂樹				
実績・成果	購入が4件、寄贈が3件、都合7件の文化財が新たな収蔵品として加わった。うち購入分についての内訳は次のとおりである。 書跡：華嚴經（二月堂焼經）巻第二十四 1巻 奈良時代（8世紀） 手鑑 1帖 奈良～江戸時代（8～17世紀） 漆工：玉虫厨子 模造 1基 大正10年（1921） 金銀平脱皮箱 模造 1合 近代（20世紀） 購入の代金額は計71,400,000円である。									
補足事項	書跡部門の購入品のうち華嚴經は、もと東大寺二月堂に伝来したもので、奈良時代唯一の紺紙銀字經として著名な作品である。奈良時代の仏教文化を主要なテーマのひとつとする当館にとって貴重な収蔵品となる。 手鑑は、折帖の表裏合わせて122面に長短206葉の筆跡を貼り込んだもの。日本における書の歴史を語る上で欠かせない形式の作品だが、当館の収蔵品にはこれまで含まれず、今後の展示活動に寄与すると考える。 工芸部門の2件の購入品は、飛鳥時代を代表する遺品である玉虫厨子と、正倉院宝物の漆工品を模造したもの。上代仏教美術に関する展覧会や正倉院展を開催する当館において、古代の漆工技法に関する有用な資料として今後の活用が期待できる。 以上、購入・寄贈品のいずれも今後の当館の活動において重要な役割をになう文化財と考えられる。									
										
玉虫厨子模造										
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21	
	収蔵品件数	1,812	—	—		1,790	1,794	1,805	1,812	
	うち国宝	12	—	—		12	12	12	12	
	うち重要文化財	110	—	—		106	107	108	110	
	購入件数	4	—	—		0	2	7	4	
年度実績 評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (奈良国立博物館) 仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調					



玉虫厨子模造

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)－1 適時適切な収集									
担当者	担当部課		文化財課		事業責任者		主任研究員 丸山猶計			
実績・成果	・日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を収集する当館の設置目的に則し、かつ国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき優れた作品 27 件を購入した。(内、国宝 0 件・重要文化財 1 件) 内訳：絵画 8 件 書跡 3 件 彫刻 1 件 陶磁 6 件 漆工 4 件 考古 1 件 歴史資料 4 件 決算額： 1,418,192,500 円									
補足事項	・絵画分野では、平安末～鎌倉初期の絵巻物の名品「紙本著色病草紙断簡」や鎌倉中期の「紙本著色九相図」、朝鮮王朝時代の「紙本墨画葡萄図」など、美術史上に重要な優品を購入した。 ・書跡分野では、重要文化財で中国元時代の「馮子振墨蹟」をはじめ、鎌倉時代に「大般若波羅蜜多經」を書写した「東大寺八幡宮經」および「春日版」など、時代の基準となる作品を購入した。 ・彫刻分野では、中国隋時代の金銅仏で保存状態も良好な優品「銅造観音菩薩立像」を購入した。 ・陶磁分野では、「絵唐津草文壺」や薩摩藩主島津家旧蔵の名物茶入「文琳茶入（薩摩文琳）」や安政年間（1855-59）に島津斉彬が制作したとされる「薩摩切子」2 件など、時代や制作地の特色が顕著な優品を購入した。 ・漆工分野では南宋時代の「後赤壁賦堆朱盤」など、中国漆工の優品を 4 件購入した。 ・考古分野では、中国前漢時代の元始四年（後 4 年）の銘があり、世界的に著名で評価の高い「彩漆盤」を購入した。 ・歴史資料分野では、江戸から長崎に至る街道図「江戸長崎街道図帖」をはじめ、文化交流の諸相への理解を深めうる文化史的に優れた資料を購入した。 ・これらの購入品は、わが国と大陸あるいは九州と日本各地の文化交流を説明する上で有効な資料であり、文化交流展示室（常設展示）における多面的な活用が見込まれる。 なお、平成 19 年度に購入した菊蒔絵手箱は、今年度重要文化財に指定された。									
										
							重要文化財 「馮子振墨蹟 与放牛光林語」			
定量的評価	項目		実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
収蔵品件数		397 件	—		281		333	370	397	
うち国宝		3 件	—		3		3	3	3	
うち重要文化財		27 件	—		23		24	25	27	
購入件数		27 件	—		26		42	30	27	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)									
中期計画記載事項	体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。 (九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料を収集する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調					



重要文化財 「馮子振墨蹟 与放牛光林語」

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)ー2 寄贈・寄託品の受入と活用								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	- 作品の寄贈は 43 件に上った。板屋家傳來資料は一括で 1 件として受け入れたが、江戸幕府御用絵師であった板谷家に伝来した下絵、古文書などで、受け入れ時に作成した仮リストで 10,613 件に達する。また 5 件は黒田清輝筆の絵画作品で、黒田記念館での保管と展示を行う予定である。 - 新規寄託は 3 件（内、重文 1 件）であった。 - 寄託終了は 19 件である。内、当館が購入したものが 2 件、当館へ寄贈となったものが 3 件（内、重美 1 件）、所有者に返却したものが 14 件（内、国宝 3 件）である。返却した 14 件のうち、1 件は国（文化庁）、1 件は九州国立博物館がそれぞれ購入している。 - その結果、寄託品件数は昨年度より 16 件減少した。 - 登録美術品については、増減がなかった。								
補足事項	- 文化財のご寄贈は、所有者の意思によるものであり、毎年、ご寄贈のお申し出があることは、文化財保存のため当館が努力していることが高く評価されていることの表れと考えられる。 - 本年度の新規寄託は、ここ数年のなかでは少なかった。 - 寄託減の要因は、所蔵者の経済的事情によると思われる取下げもあるが、社寺の宝物館整備に伴う取り下げ、当館への寄贈、国・国立他館および当館による購入もあり、単純ではない。 - 寄託品の数と質を維持していくために、今後も所蔵者に寄託を働きかける必要がある。 - 登録美術品制度は、個人所有の文化財の公開促進のため文化庁が推奨している制度であり、今後も文化庁と連携をとりつつ適切な運用を図る。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	寄贈品件数	43 件	—	—		71	26	81	43
	寄託品件数	2,734 件	2,400	A		2,773	2,743	2,750	2,734
	うち新規寄託品件数	3 件	—	—		94	17	39	3
	登録美術品件数	3 件	—	—		3	3	3	3
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



新規寄託品 鶴草子

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受入と活用								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	(寄贈) - 今年度、寄贈は102件で、寄贈者は6人であった。 内訳 絵画62件 書跡8件 彫刻12件 陶磁16件 漆工1件 染織2件 考古1件 (寄託) - 今年度の新規寄託は180件。建替工事中のため平常展示での活用はできないが、例年通りの数があり、研究資料としてまた特別展覧会での活用が見込まれる。 内訳 絵画105件 書跡11件 金工 13件 陶磁34件 漆工 5件 染織1件 考古 8件 歴史 3件								
補足事項	- 寄贈では、戦前に外交官として活躍された須磨弥吉郎氏のコレクションから、新たに多くの書画、陶磁、彫刻をご寄贈いただいた。また関西を代表するコレクターであった幸節静彦氏のコレクションから、古筆切 2 件、中国絵画 1 件（いずれも重要美術品）の寄贈があった。 - 寄託では、社寺調査以来親密な関係を結んでいる建仁寺両足院から陶磁器の一括寄託があった。 - 秋に開催した「日蓮と法華の美術」展の出品作品及び関係資料 7 件の寄託もあり、特別展覧会が寄託品の充実に寄与した例として特筆される。 - 寄託品の返却件数 130 件 - 寄託品数統計が複数あり、実数とあわせる整理を行ったために総数が減じているが、実際には昨年度より 50 件増加している。 整理前 6, 145 → 整理後 5, 907 (20 年度) 21 年度新規寄託 180 - 返却 130 = 純増 50 5, 907 + 50 = 5, 957								
		古今和歌集卷第十八断簡 「本阿弥切」							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	新規寄贈品件数	102 件	—	—		42	30	21	102
	寄託品件数	5, 957 件	5, 800 件	A		6, 179	6, 154	6, 145 (5, 907)	5, 957
	うち新規寄託品件数	180 件	—	—		104	117	111	180
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画 記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承										
事業名	(1)-2 寄贈・寄託品の受入と活用										
担当者	担当部課	学芸部企画室			事業責任者		学芸部長補佐 岩田茂樹				
実績・成果	寄贈については、2人の所蔵者から計3件の文化財を受け入れた。寄託については、新規に9件（うち国宝1件）の文化財を受け入れた。 〔寄贈〕 絵画： 絹本著色武蔵野図 横山大観筆 1幅 明治28年（1895） 紙本墨画淡彩瑞光図 横山大観筆 1幅 大正時代（1912～26） 工芸： 紅牙撥鏤尺 1枚 平成20年（2008） 〔寄託〕 絵画2件 彫刻3件 工芸1件 書跡3件										
補足事項	絵画部門の2件の寄贈品は、いずれも近代の日本画であるが、明治時代に行われた古画（仏画）模写のまとまったコレクションが当館にあり、今回の寄贈品の筆者である横山大観による作品であることから、関連資料としての展示効果が期待できる。 工芸部門の寄贈品は当館で行う正倉院展の関連資料として、有効な活用が期待できる。 寄託品のうち、2件の絵画、個人蔵・夜色楼台図（国宝／与謝蕪村筆）と根来寺蔵・鳥羽上皇像（重要美術品）は、いずれも著名な作品で、様々なテーマの展覧会に有用と考えられる。同時に、良好な環境での保存にも有益である。 彫刻部門の寄託品のうち、兵庫県所蔵の天部形立像は、同一工房の作と考えられる作品が奈良・金峯山寺に存在し、大和ゆかりの文化財として今後の平常展に活用できる。 その他の寄託品も、今後の平常展・特別展等において貴重なものとなりうるものである。 なお、寄託総数は昨年度と比較して減少したが、これは期限付きで寄託を受けていた一括資料を返還したためであり、寄託者の数は逆に増加している。（20年度217名→21年度221名）										
											
		武蔵野図・横山大観筆（寄贈品）									
											
		天部形立像（寄託品）									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21		
	新規寄贈品件数	3	—	—		54	2	4	3		
	寄託品件数	1,957	2,060	B		1,957	2,057	2,067	1,957		
	うち新規寄託品 件数	9	—	—		38	113	15	9		
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)										
中期計画 記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調						

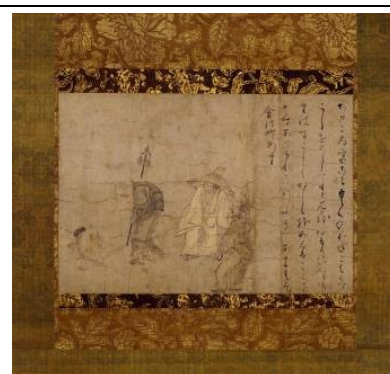


武蔵野図・横山大観筆（寄贈品）



天部形立像（寄託品）

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承									
事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受入と活用									
担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員 原田あゆみ						
実績・成果	寄贈 該当無し 新規寄託 197 件 (内訳 絵画 2 件、彫刻 20 件、金工 79 件、陶磁 1 件、漆工 5 件、染織 83 件、考古 7 件) 7 分野にわたる寄託を受けた。このうち、絵画分野の病草紙断簡 2 件は、「地獄草紙」(国宝、東京国立博物館蔵)や「餓鬼草紙」(国宝、京都国立博物館蔵ほか)に極めて近い表現を見出すことができる 12 世紀の貴重な優品である。また、茶道具名物集として極めて重要な『大正名器鑑』に掲載されている瀬戸茶入れの寄託を受けた。また江戸時代後期から上方と広く商売を続けてきた宮崎県所在の商家に伝わった文化財(能面・能衣装・貨幣類など) 185 件の寄託を受けた。変化に富んだ寄託品を受け入れることができたため、当館の文化交流展示のなかで多様な活用が期待される内容となった。									
補足事項	- 寄託品のうち絵画分野の病草紙断簡は、江戸時代から昭和初期にかけての所蔵履歴が知られる、極めて有名な作品であり、今後、王朝文化、仏教美術など様々な切り口で展示に活用できる。 - 陶磁器では唐物に次ぐ茶入れとして、江戸時代から高く評価されてきた瀬戸茶入れの寄託を受けた。茶の湯などの展示の中で、名品として紹介することができる。 - 寄託を受けた考古遺物は、北部九州における弥生時代の金属製品の特徴を示すもので、展示に活用できるのみならず、一部は出土地点が明らかであることなどから研究資料としても大いに期待できる。 (平成 20 年度から 21 年度の寄託件数推移について) 本年は個人所蔵者の申し出により、陶磁器をはじめ、彫刻、書跡、歴史資料の寄託品 44 件を返還したほか、絵画、陶磁器 2 件を寄託品から購入した。また特色ある個人コレクション 185 件の寄託が第 3 回鑑査会議で承認されたなどしたため、平成 22 年 3 月 31 日現在、昨年度に比べ本年度の寄託品は 151 件増加した。  紙本著色病草紙断簡 (せむしの乞食法師)									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21	
	寄贈品件数	0 件	—	S		6	10	7	0	
	寄託品件数	1,256 件	800 件			1,506	1,091	1,105	1,256	
	うち新規寄託品件数	197 件	—			214	46	197		
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)									
中期計画 記載事項	収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調							



紙本着色病草紙断簡
(せむしの乞食法師)

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2) 適切な管理・保存 (1/2)								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	- 平成 22 年度から 23 年度にかけて、東洋館で耐震補強工事が実施されるのに伴い、6 月から 8 月にかけて、東洋館内の収蔵庫に保管されていた文化財約 17,000 件の大部分を、表慶館、本館、資料館内に移動した。 - 平成 20 年度から、列品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を実施している。今年度は 2 年目にあたり、絵画・歴史資料・東洋漆工分野で作業を進めた。 - 収蔵品を移動したのち新しい所在位置情報を、RFID・バーコード等を利用して電子的に記録して管理の万全を図るシステム（文化財移動情報登録システム）の開発も、昨年度から継続して進めている。								
補足事項	- 列品所在情報記録システムの実証実験は、東洋絵画分野の全列品 600 余件を対象に実施した。 - 列品情報整備事業に専念させるアソシエイトフェローは、昨年度は 1 名であったが、本年度は 2 名採用し、計 3 名とした。 - 文化財移動情報登録システム開発では、昨年は東洋漆工分野の列品 500 余件を対象に、工芸品の所在位置を登録するシステムを開発したが、本年度は東洋絵画の列品 600 余件を対象に、書画作品の所在位置を登録するシステムを開発した。   上 東洋館から作品を搬出 下 列品情報整備（歴史資料）								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	—	—	—	—					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承								
事業名	(2) 適切な管理・保存 (2/2)								
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸					
実績・成果	・収蔵庫及び展示室など 341 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など 34 地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。 ・収蔵庫など 447 地点における生物生息状況を冬季と夏季の 2 回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 ・東洋館耐震工事に合わせた展示室リニューアルに向けて、展示ケースに使用する免震装置の検討を実施した。 ・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計 1,989 件の保存カルテを作成した。 ・収蔵庫、展示室など 207 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラスⅠ、Ⅱ、要注意）した平成 20 年次報告書を作成した。 ・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせて 9 件（興福寺展における阿修羅立像など）の輸送を調査した。								
補足事項	・社団法人日本包装技術協会主催・第 47 回全日本包装技術研究大会(11 月 19 日・福岡大会)において発表した「国際航空貨物における留意点ー文化財の輸送環境調査よりー」が輸送包装部会で優秀発表者に選ばれた。 ・都市住宅技術研究所の振動台を使用して新型免震装置の検証実験を実施した（12 月 24 日）。 ・京都大学防災研究所において振動台を使用して新型及び従来型の免震装置の検証実験を実施した(平成 22 年 3 月 11 日)。 測定データ全体に共通する傾向 1. ドーリー工程に 10G 以上の大きい加速度が発生していた。 2. ドーリー工程では繰り返し衝撃が発生していた。 3. 搬送時の加速度は、全輸送工程の中では比較的小さいものであった。 4. 飛行中の加速度および PSD 値は、ドーリー工程のものとは比べるほど小さいものであった。 5. ドーリー工程の PSD 値が他の輸送工程のものよりも概ね大きかった。  12 国際輸送の際に現れる振動衝撃の傾向について説明した学会発表の図表								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	保存カルテ作成件数	1,989 件	800	S		1,392	1,725	2,693	1,989
年度実績評価総括	S ① B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存 (1/2)								
担当者	担当部課	総務課 学芸部	事業責任者		総務課長 大西真一 列品管理室長 若杉準治				
実績・成果	・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等に移動した。 ・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。 ・特別展示館耐震診断業務の結果を受け、具体的な耐震補強工法等の検討に着手した。 ・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。								
補足事項	・空調設備機器については予防的なメンテナンスときめ細かな運転監視を行い、展示室及び収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行っている。 ・将来構想検討委員会建設事業小委員会において耐震補強の工法、方針等の検討を始めた。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
年度実績 評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存 (2/2)								
担当者	担当部課	学芸部		事業責任者	列品管理室長 若杉 準治 文化財管理監 中村 康				
実績・成果	・展覧会準備中に適宜巡回して害虫の持込み侵入の防止と清掃の徹底を指導、取りこぼしを拾い、開会時の虫・ゴミゼロを実現した。 ・開館前に展示ケース内・露出展示台上を点検し、虫の採取、取れない場合は生態観察、毛髪等ゴミの除去を行なった。 ・8月、シルクロード展の一部ケース内の展示台手前部分で微少な虫とシミが見られたが、採取、清掃を行なうとともに調査した結果、微少虫はチャタテムシで、当時異常な高温多湿の天候のため京都一帯でカビの胞子が飛散しており、それを餌として徘徊し、シミはチャタテムシを餌としていることが判った。発生の確認されたケースのみ即時、作品と観覧者に影響を及ぼさない程度の蒸散性防虫剤を入れ、駆除することができた。他のケースも以後、開館前の点検、清掃を入念に行なった。 ・シルクロード展終了撤収後、全ケースの床面をクリーンルーム清掃業者による吸引拭取り清掃を行ない、虫、胞子等の除去を図った。 ・次の日蓮と法華の名宝展では、展示ケース内と館内のトラップによる虫の生態調査を業者に依頼して行なった。 ・空調については、妙心寺展、日蓮と法華の名宝展、THE ハブスブルク展において空調センサーと最も離れた温湿度を示す箇所と特別の湿度設定を要する作品近く、それと館外に設置したデータロガーの記録を集計分析して空調の各種設定を気象、入館者状況に応じて調整し、作品と観覧環境の保全を図った。 ・館蔵品に係る保存カルテを作成した。 実績 214件								
補足事項	・館蔵品の保存カルテについて、目標以上に作成でき、館蔵品の保存状況についての情報蓄積が進んだ。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	保存カルテ作成件数	214 件	100 件程度	S		96	140	174	214
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存									
担当者	担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長 谷口耕生						
実績・成果	・ IPM（総合的有害生物管理）の前提として、館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる箇所を中心に、防虫トラップを一ヶ月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 ・ 文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 ・ IPM の実践として、収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的に実施した。 ・ 展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線 LAN によるリアルタイムの温湿度管理システムの構築を図り、春の「国宝鑑真和上展」、夏の「聖地寧波展」、秋の「正倉院展」で本格的に運用した。これによって、かかる温湿度管理については、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することが可能となった。 ・ 保存カルテについては、これまで部門ごとに担当者が作成・保管してきたが、今年度から新たに文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管する新システムに移行したことで、機動的かつ詳細に文化財の損傷状態を把握することが可能となった。 ・ 西新館耐震工事については展示施設として必要とされる耐震性を確保するための補強工事を行うとともに、展示環境の向上を意図した内装・照明設備等の更新を行った。また、監視面の強化を図るための監視モニターの更新を行った。仏教美術資料研究センターについては、重要文化財に指定された建造物であるため、過剰でなく必要最低限の耐震性を確保するとともに、原状に復しつつも現在の使用意図に照らした新たな平面計画の下、内装改修を行った。									
補足事項	・ 防虫トラップは昨年度と同様に、展示室収蔵庫文化財修理所等 150 箇所に設置し、1 か月ごとに回収したものを外部業者に調査委託した。3 年間のデータの蓄積が必要とされており、引き続き実施する予定である。 ・ 無線 LAN による温湿度管理システム導入後も、以前からの毛髪計およびデータロガーの温湿度計も引き続き使用し、計測結果の精度を高めた。 ・ 以上の防虫トラップ設置および無線 LAN 温湿度管理システムによって得られたデータは、本年度後半から来年度にかけて進む西新館の耐震工事および新免震ケース製作に際して、展示室内・展示ケース内の温湿度環境保持や文化財害虫防止対策への重要な指針となった。									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	保存カルテ作成件数	114 件	100 件	A		102	103	108	114	
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)									
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調							



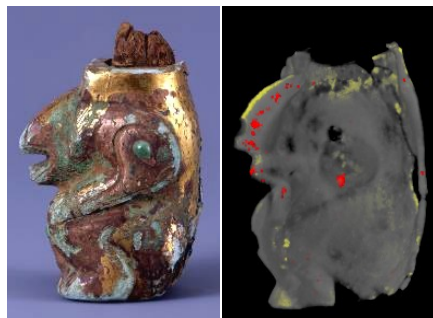
無線 LAN 対応温湿度センサー



展示室内設置防虫トラップ

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(2) 適切な管理・保存								
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	博物館科学課長 本田光子					
実績・成果	① 収蔵庫・展示室等 300 ヶ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、IPM メンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。 ② 常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。 ③ 収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。 ④ 展示品を中心に X 線 CT スキャナや三次元計測装置、三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。 ⑤ 修理資料および収蔵資料を中心に保存カルテを作成すると共に、計画的な保存修理事業をすすめた。 ⑥ IPM の実施については、地元 NPO 法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。								
補足事項	・平成 21 年度文化庁受託事業「美術館博物館活動基盤整備支援事業—市民と共にミュージアム IPM」を実施することにより、IPM ボランティア活動へのさらなる指導支援をすすめることができた。 ・環境データを解析することで、極めて安定した収蔵庫・展示環境を維持することができた。 ・楽浪出土品（金銅製品・漆器等）などの展示品を中心に X 線 CT スキャナや三次元計測装置による調査を実施し、研究成果を公表すると共に特別展示やトピック展示に反映した。 ・開館 5 年目で展示・収蔵環境をより安定させることができた。今後は安定化を維持したまま、より一層の効率化を図りながらエネルギーの削減に寄与したい。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	保存カルテ作成件数	205 件	200	A		205	252	289	205
	CT スキャン調査	44 件	—	—		3	35	40	44
	三次元計測	45 件	—	—		5	20	42	45
	殺虫殺菌処置	7 件	—	—		2	5	6	7
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



X 線 CT スキャナを用いた
楽浪出土金銅の状態調査

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理								
担当者	担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸					
実績・成果	1) 修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて 210 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約 2,000 件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じ X 線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画 1 件及び重文石彫 1 件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。 2) 作品の応急（対症）修理を 925 件実施。本格修理を 106 件実施した。 3) データベース構築のために 20 年度に本格修理を実施した 76 件の内、修理が完了した 53 件の修理内容についてデジタル化を実施した。20 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ⅹを刊行した。デジタル化推進経費によって保存カルテ約 6,562 件の電子化が進んだ。 4) 紙本などの修理技術者として保存修復課に 3 名のアソシエイトフェローをおき、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急修理を本格化させた。								
補足事項	1) 絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 6 件実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2) 修理前あるいは修理中に実施した科学的調査は、A-11529 孔雀明王像、TG-2329 青磁鳳凰耳瓶、J-39135 東大寺山金象嵌銘花形飾環頭大刀など 48 件である。  アソシエイトフェローによる 両界曼荼羅の本格修理								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	本格修理件数	106 件	70 件	S		97	85	76	106
	保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化	53 件	70 件	B		144	97	85	53
年度実績 評価総括	S ㊤ B C F （S、F の理由）								
中期計画 記載事項	国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		順調							



アソシエイトフェローによる
両界曼荼羅の本格修理

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理									
担当者	担当部課	学芸部		事業責任者	列品管理室長 若杉準治					
実績・成果	中国絵画については、昨年度、一段落した須磨コレクションの未表装の作品や大破状態の作品の修理に引き続き、その次の段階にある作品についての修理に取り組み、また古い修理部分の痛みが目立ち展示に支障が生じた考古資料を修理した。 修理に関しては、契約方法、業者選定の適正化のため、「修理契約委員会」(外部委員：山岡泰造氏)において、作品ごとに契約方法を決定し、企画競争とした2作品については、「請負候補者選定委員会」(外部委員：梶谷亮治氏)で業者を決定した。 実績：絵画4件、考古資料1件									
補足事項										
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	収蔵品修理件数 文化財保存修理所修復資料のデータベース化	5 件 481 件	10 件程度 250 件程度	C S		11 2,870	15 2,377	17 686	5 481	
年度実績 評価総括	S A ㊦ C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調						

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承									
事業名	(3) 計画的な修理									
担当者	担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	上席研究員 鈴木喜博						
実績・成果	・国民共有の財産として長く後世へ伝えるため、館蔵品のうちの7件の修理に着手し、あるいは完了した。計11件。 内訳 絵画2件（重要文化財 2カ年継続事業 第2年度） 書跡2件（重要文化財 2カ年継続事業 第2年度） 彫刻1件 漆工1件 考古資料5件。 ・前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12号（平成22年3月刊行）に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧（平成20年度）」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。 ・平成21年度 of 古墳出土金属製品等の修復事業として、館蔵品のうちの2件の修理に着手し、1件を完了した。 内訳 未指定 金銅装眉庇付冑(五条猫塚古墳出土) 未指定 鉄斧・刀子（二塚古墳出土遺物） ※3カ年事業（21～23年度）									
補足事項	・館蔵品の国宝刺繍釈迦如來說法図（勸修寺伝来）の修理について、昨年度の予備検討会を受けて、有識者、修理技術経験者、文化庁美術学芸課調査官、奈良県教育委員会技師および当館研究員を交えた修理検討会を8月、開催した。結論としては、保存状態からみて、来年度「大遣唐使展」の展示では慎重に取り扱うこと、その後、最善と思われる修理仕様にもとづき、予算等の確保も含めて、本格的な修理を検討するのが好ましいという結論を得た。  木造如来立像 材質強化									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	修理件数	11件	4件	S		4	10	8	11	
年度実績 評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調						



木造如来立像 材質強化

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
-----	---

事業名	(3) 計画的な修理									
担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田 励夫						
実績・成果	①館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財 24 件を修理した。 ②九州をはじめとする館外の文化財修理のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。(26 件) ③表具用裂などの修理材料収集を行い、実際の修理に役立てるとともに、資料として保存を図った。 ④修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。 ⑤修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光 X 線分析や顕微鏡観察による調査、X 線、CT スキャンを活用した調査を実施した。 ⑥カビなどの生物被害について、顕微鏡観察や写真撮影などを行った。									
補足事項	①館費による修理件数 24 件(絵画 6、書跡 1、彫刻 2、漆工 2、考古 9、歴史資料 4) ②修復施設 1～4 では、国宝修理装飾師連盟が館所蔵品 9 件のほか、国宝・那覇市所蔵琉球国王尚家関係資料文書記録類や重要文化財・京都国立博物館所蔵旧円満院宸殿障壁画など 28 件の修理を実施した。5 では裯芸匠が 8 件、6 では輪島口工芸社が 3 件の館所蔵品等の修理を実施した。 ③収集した表具裂は表具の取り合わせにも活用した。また、伝統的な材料の資料として保存、公開、修理への利用等に資した。 ④・⑤修理技術者により技術的な判断に加えて、絵画、書跡、漆工、彫刻、考古などの各専門分野を持つ研究員や最新分析機器を駆使した文化財科学専門の研究員と共同して、最善の修理を行うことができた。 ⑥生物被害への対応策を検討するため、カビや虫についての調査を充実させた。									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	修理件数	24 件	15	S		10	22	25	24	
	修復施設の活用(補助事業等)	26 件	—				8	15	26	
	科学的調査	7 件	—				10	10	7	
	表具裂データ	24 件	—			71	42	32	24	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)									
中期計画記載事項	修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調					



九州国立博物館所蔵 交易船図巻の
修理風景